

芦屋市議会議員

大原ゆうき

Blog

ブログ、日々更新中!  
<https://oohara-yuuki.blog.jp/>



- 昭和59年2月8日生まれ（40歳）
- 伊勢幼稚園、シドニー日本人学校、関西学院中学部、関西学院高等部を経て関西学院大学経済学部を卒業。
- 卒業後は民間企業でシステムエンジニアとして勤務。
- 現在3期目。

TOPICS

1

## 特別職の報酬見直しは定期的に行うべきではないか？

令和6年6月定例会一般質問「特別職報酬等審議会の開催について」より

[詳しくはこちら→](#)


### 現状の課題について

- 前回開催は2014年と10年が経過しており、市長や市議会議員等の特別職の報酬見直しの機会なく据え置かれ続けている。
- 昨今の社会情勢は目まぐるしく変動しており、10年スパンでの開催はあまりに間が空きすぎている。
- 昨年12月14日に開催された総務常任委員会において、総務部長が「来年度は一度、その結果がどうなるかはともかくとして、一度、報酬等審議会を開催して、御意見をお聴きするということが必要な時期にきていると考えてございます。」と答弁している。
- 阪神間では、西宮市が1年おきに。宝塚市と川西市は3年おきに開催している。

### 確認事項

- 昨年度から総務部長は変わっているが「今年度中の報酬等審議会の開催が必要な時期に来ている」という考えに変化はないか。今年度中に報酬等審議会が開催されると思っていて良いか。
- 社会情勢は刻々と変化するものなので、定期的に見直しを行うべきである。本市は時の市長の判断に委ねる形で不定期で開催してきた。時の市長の判断に関わらず、定期的に開催するために条例に開催頻度を記載するべきではないか。

### 当局答弁

芦屋市特別職報酬等審議会は、本年度開催し、9月に第1回審議会を予定している。広報あしや6月号でお知らせしているとおり、現在、審議会の市民委員を募集している。特別職報酬等審議会の開催頻度は現在不定期開催となっているが、適正な特別職の報酬を定期的に点検する観点から、定期開催を検討する。

### 思うところ

- 方法はさておき、定期開催を検討してくれるという答弁は良かった。
- 昨今では、新型コロナウイルスの影響や物価高騰の影響で賃金など、社会情勢が大きく変化している。特別職報酬を見直すべきタイミングだったが、芦屋市をはじめとした不定期開催の自治体では審議会が開かれなかった。
  - ➔ 不定期開催ではタイムリーな審議会開催が難しいことを示している。
- 理想は西宮市のように、条例に明記すること。条例の改正は原則として「議会への報告なしで改正できない」ため。規則や要綱でも大きな変更を行う場合には議会に報告するとの答弁があったが、規則や要綱の場合、究極的には市長判断で議会に諮らずとも改正可能であるため、できれば条例に明記してほしい。

## 雑がみの分別を進め、燃やすごみの減量化を図るべき。

令和6年6月定例会一般質問「ごみの分別促進について」より

詳しくはこちら→



### 現状の課題について

- 雑がみの分別がほとんどできていない。芦屋市の組成分析では、燃やすごみのうち3割～4割を紙類が占めている。
- 『芦屋市一般廃棄物処理基本計画』でも、紙資源の分別が「基本方針」として定められている。しかし、実施計画を見ても「課題」とは書かれているものの、具体的な解決策が講じられていない。
- 徐々に品質が落ちてくるカスケードリサイクルは商業ベースとして利用するには苦しく、リサイクルとしてあまり意味がない。紙の場合、水平リサイクルが可能。国内における古紙の利用率は年々増加しており、2023年度では66.8%。また約20%が輸出されており、古紙の再利用のサイクルは商業ベースに乗っていると言える。

### 確認事項

- 雑がみの回収率アップについての具体的な取組はいつ展開されるのか。
- 市民が分別に協力したとしても、その成果が全く見えてこない。売却益や分別による焼却コストの削減効果など、成果が見えるようなデータを提供すべきではないのか。

### 当局答弁

雑がみの分別促進は本市の重要課題であり、全戸配布している家庭ごみハンドブックや出前講座、指定ごみ袋の説明会等で啓発している。しかし、大きな改善効果は見出せておらず現在も周知啓発の手法について試行錯誤している。今後、雑がみの説明や自治会などで取り組んでいる再生資源集団回収の活用などを広報あしやの特集記事に掲載するなど、周知啓発に取り組む。分別効果の情報提供については、ごみの分別にご協力いただいている市民の皆様の理解増進とご協力へのフィードバックとしても必要だと考えている。ご提案いただいた可視化の手法等も参考に、市民の皆様の更なるご理解を得られるよう取り組んでいく。

### 思うところ

- 雑がみの分別が進んでいないというのは、全国的なトレンドになっている。が、芦屋市は特に燃やされている紙ごみが多い。
- 水平リサイクル(ボトル to ボトルなど)ができないものは、リサイクル業者に引き渡された後にどうなっているかわからない。そうした資源は仮にリサイクル(カスケードリサイクル)されたとしても、燃やされるのが数回パスされるだけで循環しない。
- また、リサイクルのために多大なエネルギー(電気など)を要する。果たして環境にプラスになっているのか。
- 紙は、水平リサイクルが商業ベースに乗っている数少ない資源であり、分別すると明確に環境のためにプラスとなる。漫然とした「環境のためになるんじゃないの」との理解で分別に協力いただくのではなく、明確に「環境のためになる」との理解で分別をしていただくほうがより効果的。情報の可視化も含めて、分別後の状況について発信してくれることを望む。

## 副議長を辞職しました

5月の臨時議会においては、1年間の任期を終えて副議長を辞職しました。議員間討議の活発化や、議会報告会などの市民と議会の距離感を近づける改善、主権者教育など。議会改革についてやり残しているところがあったので、もう1年続投したいところでしたが、かないませんでした。1年間の任期において、議会改革の色々なことで提起をしてきましたが、実現できたことはなく……。議会改革を推し進めることの難しさをまた痛感させられました。副議長を辞したことで、一般質問を行うことができるようになりました。引き続き、市政の発展のために尽力したいと思います。